

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

夏期一時金 (ボーナス) 6月30日支給 国の抗体検査職免対応 (6月1日より)

コロナ禍での緊急要求 引き続き職場の切実な声を届けよう!

2020府労組連

夏季闘争

6月2日、府労組連(大阪府関連労働組合連合会)は、「夏季要求書(新型コロナウイルス感染症対策下における緊急要求)」を提出し、事務折衝を重ね、コロナ対応に迫られる職場実態にもつき追及し、要求実現を求めてきました。

6月17日、人事局長との団体交渉を行った結果、人事局長は府労組連に対する最終回答を行いました。

声をあげて勝ち取ったコロナ禍での到達!

今季の団体交渉では、「現行条例に基づく期末・勤奨手当を6月30日に支給」「新型コロナウイルス感染症にかかると国の抗体検査を受けた場合の勤務の取扱いについては、国と同様に

職場を混乱させる

「評価・育成システム」反対!

今季の折衝・交渉では、「評価・育成システム」の中止・撤回について強く求めました。コロナ禍の中、年度当初の休

今季闘争のおもな最終回答

●夏期一時金 (ボーナス)

を6月30日に支給

夏期一時金支給月数は次の通りです。

- ◆職員 2.25月
- ◆再任用職員 1.21.175月
- ◆新規採用職員 0.69250.675月

評価制度の給与反映のための原資として、全教職員の勤奨手当から一律に0.03月(再任用職員0.014月)分が差し引かれます。また、評価結果によって勤奨手当の支給率が変わります。

●国の抗体検査に職免対応

新型コロナウイルス感染症にかかる国の抗体検査を受けた場合の勤務の取扱いについては、国と同様に、6月1日に遡って職務専念義務を免除する。

引き続き職場の要求集約と実現をめざそう!

うな状態で、例年通りの評価を行うことが、職場に混乱と無用なトラブルを持ち込み、困難なことは明らかです。府労組連は、「混乱中での実施は逆効果にしかならない」と厳しく追及し、給与反映だけでも中止するよう求めました。しかし、府当局は「スケジュール等については柔軟に対応する」としつつも、「地方公務員法で決まっている」と実施に固執しました。

今季の闘争は、コロナ禍の中で交渉の日程・規模等を縮小し、取り組みを進めざるを得ませんでした。府労組連は職場の切実な声を可能な限り集約し、折衝・交渉を重ねてきました。引き続き、生活改善

感染症が人類の脅威となってきたのは、農業や牧畜の発明によって定住化して集落が発達し、人と家畜が密接に暮らすようになってからだと言われています。

この半世紀をみても新しい感染症が次々と出現しています。エイズ、エボラ出血熱、SARS、そして今回の新型コロナウイルス感染症など、数十の新しい感染症が確認されています。

新たな感染症が出現する背景として、多くの専門家が共通して指摘しているのが、熱帯林などの乱開発や環境破壊が急ピッチです。人と野生動物の境界が取り払われたことにより、動物と人間の距離が縮まったことです。本来は人と接触がなかった動物が持ついたウイルスが人間に感染し、ウイルスは種を保存するために変異を続けて感染力の強い新たな感染症として次々出現しています。ほかにも地球温暖化によって住む場所を奪われた動物が人間と接触していることも新たな感染症が出現する要因とされています。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

交通機関の発達で世界中に時をかけずに運ばれるようになった新興感染症。いま、国際社会が協調して感染症の危機に立ち向かわなければならぬときに覇権を争うように非難し対立しあう経済大国—アメリカ・中国。過去を振り返れば、米ソ冷戦体制で軍拡競争を繰り返していたときでも天然痘根絶プログラムやポリオの生ワクチン実用化に向けて米ソ協力が行われました。過去に学び、パンデミックの収束のために、米中は世界に対する責任を果たすべきです。そして、先進国にとって、環境破壊や地球温暖化対策に真剣に向き合い対策を講じることは待ったなしの課題です。

学校再開!でも、不安やまどいが多いが...

肢体不自由校・聴覚支援学校

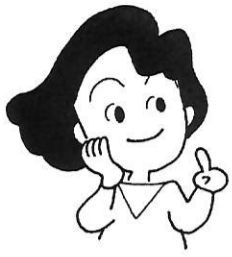
○肢体不自由校では

交野支援学校の感染症対策について

医療的ケアが必要な児童生徒や基礎疾患がある児童生徒も多い交野支援学校では、保健室(養護教諭、看護師)が中心となり、府教委や

◎保健室(養護教諭、看護師)の立場から
○登校開始に向けて感染防止対策の物資が品薄で揃わない。

管理職からの指示や校内での相談を踏まえながら感染症対策をすすめています。6月からの一斉登校や給食開始に向けて、現時点での問題点や今後の不安について、保健室の立場(専門職としてのプレッシャーが大きいだらうと思います。)と、担任の立場(やっと出会えた子どもたちと学校生活をゆったり、たっぷり楽しみたいのにといい思いがありますよね。)で、簡単にまとめてみました。



・手袋、非接触型体温計、フェイスシールド、アルコール容器、次亜塩素酸ナトリウム、ビニールエプロンなど、すべてが入り手にくい状況。登校開始にむけて、代用品や教職員総出で、手作り品なども合わせて、ぎりぎり調達している。
○府の感染症対策マニュアルについて
・6月登校開始にもかかわらず、具体的な指示が5月末で、混乱が生じた。
・基礎疾患、医療的ケアもある児童生徒について、詳細は学校に任せられている部分が多く、方針を決める上ですごく困っている。

○今後の不安

・今の対応をいつまで続けるのか(感染症対策の緩和や制限の新たな指示が出るのか、学校判断となるのか)
・感染防止対策物資の予算が続くのか(消毒液、使い捨て手袋・エプロンなど)

◎担任の立場から

○一人一人接触すること、衛生管理(手袋やエプロンの着脱、消毒作業など)の必要があり、授業保障との両立ができるのか。
○教室、トイレ、備品、教材、装具類などの消毒作業に、

○聴覚支援学校では

生野聴覚支援学校(分会)ニュースより紹介

コロナによる長い長い臨時休校の間、他校の先生方も、体も心も何とも言えないモヤモヤした気持ちで過ごしていた方が多いように感じました。

非常勤の教職員の方々の臨時休校中の服務や勤務割り振りの問題もあり、大障教の本部にも相談させていただきながら、他の組合員とともに支える事も行いました。

時間や人手が必要となる。
○感染の不安から登校を見合わせる児童生徒に対して、訪問簿への転籍を認めるなど、学習の機会を保障できないか。web授業などでは対応できにくい実態がある。

ニール手袋・フェイスシールドを着ける、席の距離をとる、向き合わないようにする...など、制約が多すぎて、必要な給食指導や指導の基礎にするべき信頼関係の構築が難しくなる。
○時間的にも、精神的にも負担、不安が大きい。
学校再開に向けて、保健室や担任の立場でも様々な問題点や不安があり、安全を確保しながら日常の教育活動を再開する上での課題は山積しています。とりわけ、感染防止対策に必要な物資や教職員の人手は全然足りません。子どもの「いちど健康」を守るために、必要となる予算措置や教職員増の対策を府教委にはただちにおこなってほしいです。
(交野支援学校分会 岸下 典子)

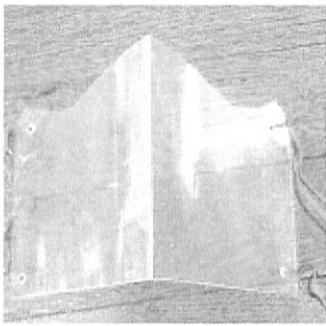
「三密」回避と言いつつ、あいつも変わらず満員電車に乗って通勤していた我々にも、遅ればせながら、テレワークや自動車通勤などが認められるようになってきた事は、コロナの感染予防を行う上では大切な事であったし、良かったと思っています。

しかし、横のつながりが一気になくなり、会議もできず、府からの再開後の指針などもなかなか出ず、どうしたらいいのか?非常に困りました。広く意見を聞くと思うと、とにかく時間ががかり大変でした。非常事態の時には、みんなの声を踏まえた上で、ある程度学校独自の判断で学校運営をすすめていくことも必要だと感じました。

確かに、誰もが経験していないこのコロナの対策は慎重にならざるを得ないという事はよくわかります。しかし、このコロナ禍で、我々教職員は職場はただでさえ忙しくてなかなか会話が



一方で、学校再開されるから必要なものとして、「コロナを子どもたちにつさない!」なおかつ「視覚的に顔や口が見える」という条件でのマスクやフェイスシールド作りを各学部のみんなで行っている工夫しながら、作っていました。



みんなで工夫して作った透明マスク

休校期間中に寄せられた組合員さんからの声を紹介します。「この休校中、勤務校は早々から交代でリモートワークができるようになり、時差出勤や子育て世代は職免が取れるような説明も組合や管理職がすぐに対応してくれ、勤務体制としては安心して過ごせました。

ができない状況でいつものように集まることもできず、様々なコロナ対応に振り回される中で通常業務に加えて別の業務が増え、ますますそれぞれが忙しさとともに切り分けられていくような気がしてなりません。

いつ来るかもしれない第二波のためにも、ぜひ現時点までの皆さんの意見を聞いて、検証する事が必要ではないかと思えます。そして、組合員みなさんの様々な意見を集めて、これからの職場の力にできるように微力ながら頑張りたいと思います。
(生野聴覚支援学校分会 丹治 一哉)